









沖縄の移民を知るための10冊

町田 宗博(琉球大学教授)·選

『移民は生きる』比嘉太郎編著(1974)日米時報社

著者の比嘉太郎はハワイ生まれの沖縄系2世で、第2次世界大戦では 米軍の通訳兵として沖縄へ赴き、多くの住民の命を救った。本書は戦後の 沖縄救済運動を中心にまとめられている。



『沖縄移民女性史』沖縄県婦人連合会編(1979)沖縄県婦人連合会

沖縄県婦人連合会創立 30 周年を記念して出版された。南米移民とし て海を渡った女性たちによる貴重な体験記。



『眉屋私記』上野英信(1984)潮出版社(復刊 2014、海鳥社)

やんばるの屋部村、眉屋一門の150年を通し、名も無き人々の生き様、 歩みから近代沖縄の姿を描き出した。上野英信が沖縄からメキシコまで 10年の取材を通して書き上げた記録文学。



『世界のウチナーンチュ』(1・2・3)

琉球新報社編集局編著(1986)ひるぎ社

1984年から2年間にわたり、世界24カ国、300人以上の県系人が登 場した新聞の連載記事がまとめられている。



















沖縄本ナビゲーション2018年度版 ~知るための10冊~

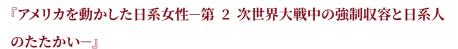
『海からぶたがやってきた!』下嶋哲朗(1995)くもん出版

第二次世界大戦により、甚大な被害を受け食糧難となった沖縄に、ハワ イの県系人らが決死の覚悟で 550 頭のぶたを船で送り届けたという史実 に基づく児童向け図書。



『日本移民の地理学的研究―沖縄・広島・山口』 石川友紀(1997)榕樹書林

沖縄・広島・山口を中心に、日本移民の社会的歴史的背景を、豊富な 統計資料をもとに分析し、移民史研究に大きな影響を与えた学術書。



メアリー・ツカモト・エリザベス・ピンカートン著、宇久眞雄・垣花豊順・ 與儀憲徳・赤嶺健冶・島袋善光訳(2001)琉球新報社

第二次世界大戦中におけるアメリカでの日系人強制収容と、その保障 を求めて戦った県系女性メアリー・ツカモトの克明な体験記。



『沖縄と「満州」―「満州一般開拓団」の記録』 沖縄女性史を考える会編著(2013)明石書店

『もう一つの沖縄文学』仲程昌徳(2017)ボーダーインク

沖縄から「満洲一般開拓団」として中国東北部にわたった人々の現地で の生活、苦難の逃避行などを当事者への聞き書きを軸に丹念に掘り起こ した貴重な記録。



沖縄の作家たちが、シベリア、ハワイ、台湾、インドネシアなどの海外を舞 台に描いた小説群を紹介。埋もれた作品を通して県系人の海外体験を知 ることができる。



『空白の移民史-ニューカレドニアと沖縄-』三木健(2017)シネマ沖縄

ニューカレドニアで自分のルーツを求めて苦悩する二世たちに寄り添 い、その歩みを記した一冊。2018年度文化庁映画大賞を受賞した映画『ま ぶいぐみ~ニューカレドニア引き裂かれた移民史~』の原作本。









